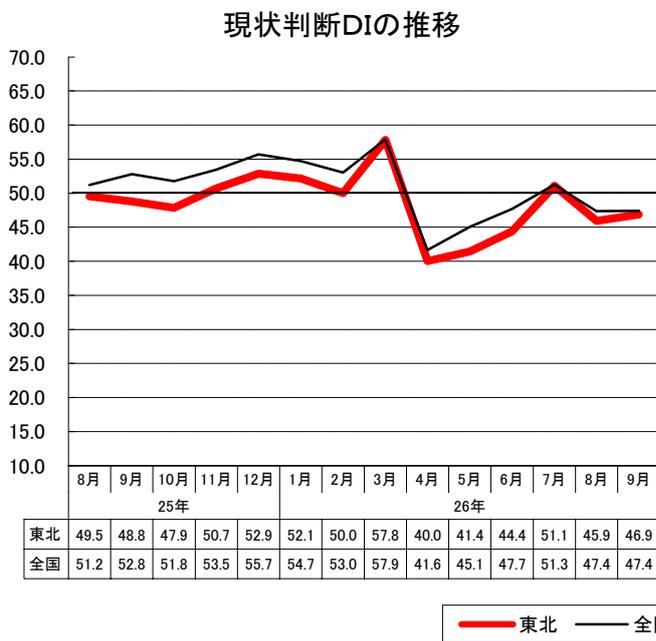


公益財団法人東北活性化研究センター  
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 26 年 9 月東北分  
 (新潟を含む東北 7 県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター(会長:高橋宏明・東北電力(株)取締役会長)は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 26 年 9 月東北分(新潟を含む東北 7 県)」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

### 1. 現状判断(3か月前との比較、方向性)

現状判断 DI「46.9」(+1.0)は、2か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる 50 を 2 か月連続で下回った。



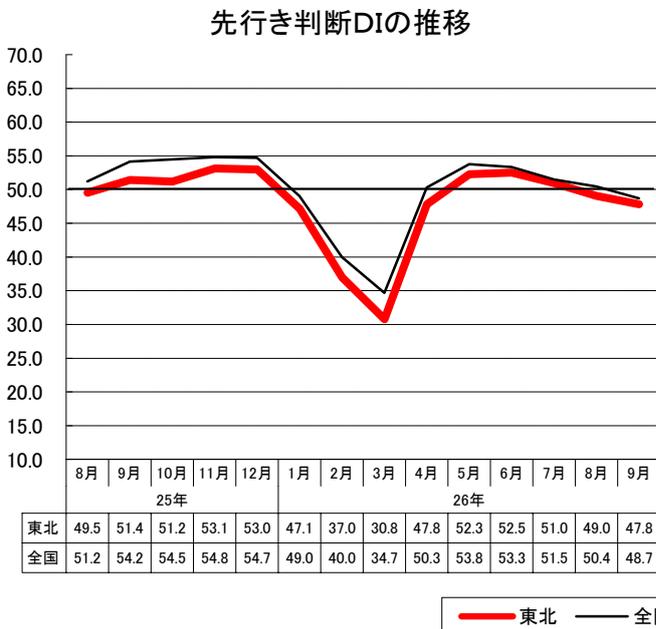
・家計動向…コンビニは来客数が減少し DI が悪化している。一方、乗用車は来客数が増加し回復幅が大きくなっている。DI は「46.2」(+1.4)と 2 か月ぶりに前月を上回ったものの、基準値 50 を 6 か月連続で下回った。

・企業動向…製造業は受注・販売環境が悪化しているが、非製造業では大幅に改善している。DI は「50.0」(+3.0)と 2 か月ぶりに前月を上回り、2 か月ぶりに基準値 50 以上となった。

・雇用動向…DI は「45.5」(▲5.6)と 2 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 21 か月ぶりに下回った。

### 2. 先行き判断(2~3か月先の見通し、方向性)

先行き判断 DI「47.8」(▲1.2)は、3か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる 50 を 2 か月連続で下回った。



・家計動向…乗用車、百貨店、コンビニ等、小売関連で景気の悪化が懸念される業種が多くなっている。DI は「47.9」(▲1.8)と 3 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 2 か月連続で下回った。

・企業動向…製造業、非製造業、共に改善が見込まれている。特に、非製造業は、ほとんどの業種でプラス判断となっている。DI は「51.2」(+4.8)と 3 か月ぶりに前月を上回り、基準値 50 を 2 か月ぶりに上回った。

・雇用動向…DI は「40.9」(▲9.1)と、2 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 6 か月ぶりに下回った。

## <参 考>

### ■DIの推移※

#### (1) 現状判断(方向性)DI

	25年					26年								
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東北現状	49.5	48.8	47.9	50.7	52.9	52.1	50.0	57.8	40.0	41.4	44.4	51.1	45.9	46.9
家計動向関連	48.4	47.6	45.4	48.4	49.1	48.3	45.9	55.4	35.9	37.8	43.5	49.8	44.8	46.2
企業動向関連	51.2	50.6	50.6	53.6	60.4	59.5	59.5	65.5	46.4	44.0	42.9	52.4	47.0	50.0
雇用関連(参考)	53.4	53.4	59.1	60.2	63.6	63.6	59.1	59.1	54.5	60.2	53.4	56.8	51.1	45.5

#### (2) 先行き判断DI

	25年					26年								
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東北先行き	49.5	51.4	51.2	53.1	53.0	47.1	37.0	30.8	47.8	52.3	52.5	51.0	49.0	47.8
家計動向関連	47.2	50.0	51.0	51.6	52.1	45.0	34.8	29.3	48.1	51.7	52.4	50.3	49.7	47.9
企業動向関連	54.2	54.8	50.0	57.7	54.3	51.2	43.5	31.5	44.0	52.4	53.0	52.4	46.4	51.2
雇用関連(参考)	55.7	54.5	54.5	54.5	56.8	53.4	38.6	38.6	53.4	55.7	52.3	52.3	50.0	40.9

※DI (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

### ■調査の概要

調査期間 平成26年9月25日～30日

回答者数 207/210名、回答率98.6%(全国1,863/2,050名、90.9%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL: 022-225-1426 FAX: 022-225-0082

## <別 紙>

### ■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

#### （1）現状判断理由

##### ○「やや良くなっている」

（乗用車販売店）…4月以降は消費税増税の影響により、客の購入能力は十分にあるものの、今すぐには必要ないなどの理由で売上には繋がっていなかった。しかし、ここに来て新規来客数は予想以上に増加しており成果にも繋がっている。

（通信会社）…低価格商品の加入者が少しずつ増加しており、解約者も減少しつつある。加入者数のトータルは純減であるものの、3か月前に比べてかなり良くなっている。

（観光名所）…週末の天候に比較的恵まれて、近隣で開催されたイベントとの相乗効果もあり来客数が前年越えの見込みである。

（住宅販売会社）…輸出が好調な製造工場の増築に伴い、関連会社の新築工場物件が不動産から工事までを一貫して受注できている。

（食料品製造業）…計画よりも少し上乘せした売上が達成できそうである。また、来月もほぼ計画通りの受注が入っている。

（建設業）…官庁工事の受注が順調に推移しており、当初の予定をクリアしている。

（輸送業）…生鮮品の出荷が増加している。

（飲食料品卸売業）…首都圏、特に大型小売店向けの出荷に伸びがみられており、大型小売店による景気刺激への売場の努力がうかがえる。

##### ○「変わらない」

（商店街）…9月は週末ごとのイベントが多く、その効果により飲食店では活況の声が聞かれている。しかし、同様の効果は物販関係にまでは届いていないようである。

（カメラ販売店）…低価格商品の販売量は好調であるものの、高額商品の動きが鈍く売上額の回復がみられていない。今後の新型商品の販売に期待したい。

（百貨店）…9月に入り天候にも恵まれ、紳士服、婦人服、子供服共に衣料品の動きが活発になってきている。ただし、全体的には消費税増税後の高額商材のマイナス分をカバーするには至っていない。

（衣料品専門店）…気温の低下に伴い来客数は増えてきているが、他店と見比べている様子であり購買にはなかなか繋がりにくい状況である。

（ガソリンスタンド）…石油製品の価格が高止まりしているため、節約志向が進んでいる。そのため、販売増を狙って末端価格が下がり収益を圧迫してきている。

（ショッピングセンター）…買上率は低迷している。

（観光型旅館）…今月は、夏の繁忙期と10月以降の秋の観光シーズンの端境期である。祝休日が月の3分の1以上もあり連休もあるため団体客が多少目立っており、かろうじて前年並みの入込である。

（電気機械器具製造）…受注量、販売量共に大きな変化はなく推移している。最終製品のメーカー間の競争が激化しているが、その結果が受注量の大きな変化に影響を及ぼすところまでには至っていない。

（金融業）…株価上昇に伴い投資意欲も積極的になっている。

##### ○「やや悪くなっている」

（スーパー）…業績は売上ベースで前年比93%台で推移している。また、台風などの影響で農産物の価格が高騰し、買上点数が減少している。反面、乾物、冷凍野菜などは好調であるが、厳しい状況に変わりはない。

（家電量販店）…来客数が非常に少ない状況が続いている。

(住関連専門店) …扱っているものが耐久消費財のため、買い控えがまだまだ続いている。また、新築物件も三隣亡で控え気味となっている。通常9月は異動などにより家具の需要が高まるシーズンに入るのだから、販売量は伸び悩んでいる。

(旅行代理店) …月ごとに若干のばらつきがあるものの、申込件数は微減しており夏休みまでの勢いはない。

(タクシー運転手) …客はより安い車を利用している。

(設計事務所) …今まで多かった住宅の仕事がほとんど施工に入った事もあり、新たな図面の依頼が少なくなっている状況である。

(一般機械器具製造業) …自動車部品は、自動車の国内販売の減少の影響を受けている。また、一部新興国経済に陰りが出ており、その影響で輸出環境が悪化してきている。

(新聞社[求人広告]) …求人数は地元企業の数が増減しており前年比75%である。中央資本の企業への集中傾向にあり、地元求人企業には諦め感が漂い始めている。

(職業安定所) …これまで前年同月比でプラスであった新規求人数がマイナスに転じており、有効求人倍率も前月より低下している。

## ○「悪くなっている」

(コンビニ) …来客数の前年比が90%に落ち込んでいる。競合店の出店など環境変化によるものとみている。

(一般レストラン) …客の話題に共通しているのが、消費税率10%への引上げについてである。今はやっと8%の消費税率や法人税減税などに伴う給料体制が整った段階であるのに、今後また経営修正が必要となってくる。そのため、購買意欲が絶望的に低下している。

(農林水産業) …米の出荷に伴う概算金の金額が過去最低となっている。

(人材派遣会社) …主力の業務請負のメーカーが生産調整をおこなっている。また、他の委託先も受託条件が改悪されて1千万円の営業利益の損失となっており、想定外の悪化である。

## (2) 先行き判断理由

### ○「やや良くなる」

(商店街) …引き続きイベントなどの慌ただしい時期となる。同時に、物販店、飲食店の新規出店があり期待が持てる。

(通信会社) …毎月、解約者数が徐々に減少し続けている。また、10月からは年末キャンペーンの効果も期待できるので、新規の契約者が増加していくとみている。

(テーマパーク) …客の消費が消費税増税前と同等になりつつある。

(食料品製造業) …売上は微増している。増産のための人員が不足しているが、人員は市場で取り合いになるため100%の確保ができていない。

(建設業) …下半期も、おおむね現在の傾向のまま推移するとみている。しかし、見通しにある複数の大型建設事業の発注が予定通り進めば、若干の上向きになるものと見込んでいる。

(広告代理店) …受注量が増えている。

(公認会計士) …建設業関係は、相変わらず売上、利益共に前年比より落ち込んでいるものの、受注状況は順調である。小売り関係も消費税増税の影響を脱しつつあり、若干上向きではないか。

(飲食料品卸売業) …年末に向けて、地元では新規飲食店の開業などの話が出てきており、外食での消費需要に期待している。

### ○「変わらない」

(百貨店) …寒さの兆しが早く冬物の動きは良くなるとみている。しかし、光熱費などの値上げの発表で生活防衛意識が強まっており、必要な物しか買わないという傾向も強くなる。

(乗用車販売店) …軽自動車税引上げを見据えた駆け込み需要が始まる可能性もあるが、前年度の消費増税前の駆け込み需要ほどのインパクトはなく、しばらく新車販売は滞るとみている。

(企画業) …住宅展示場への客足が鈍化している。積極的に商談に入る客も少なく、しばらくは模様眺めが続く気配である。

### ○「やや悪くなる」

(スーパー) …平成 26 年度産の米の概算金が暴落している。下落率も 60 キロでマイナス 25%前後と今までになく大きく、農業県の景気に与える影響は大きい。

(コンビニ) …雪が降ると来客数が減るので売上も減少し、更に除雪代や光熱費などが経営を圧迫してくる。コンビニ全体の売上の前年比が下がってきているようなので今後の懸念される。

(旅行代理店) …先行受注の状況はやや悪くなっている。

(自動車整備業) …例年、米の収穫が終わると消費行動が伸びるが、今年はいきたこまの米価低落の影響を受けるのではないかと懸念される。

(新聞社[求人広告]) …急激な円安の影響でガソリンを始め生活用品が値上がりしている。売上が伸び悩むと、企業はますます採用意欲をなくすのではないかと懸念される。

(職業安定所) …今後、大手電気機械器具製造業や繊維工業などで雇用調整が予定されており、求職者数の増加が見込まれている。

### ○「悪くなる」

(書店) …地方創生について発表されたが、この具体的な道筋が公表されない限り地方経済はこのまま続く。

(農林水産業) …今後も米価は下落傾向にある。

(人材派遣会社) …主力取引先が悪化しており新規受注も弱含みであるため、2～3か月先の見通しは暗い。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上